



イラスト・題字：長峯亜里

## 新たな人生を得るために

戦争は繰り返される。政治や宗教、差別が生む内戦が地図上から消えることもない。噴火、地震、干ばつなど自然災害は人の力を上回る。その都度多くの人々が自国を逃れることを余儀なくされる。

そうした難民の多くが目指すのが「自由と民主主義の国」アメリカだ。移民や難民に寛容で、誰にでも、学び、生計を立て、億万長者になれる機会がある、というイメージがある。ナチスの迫害を逃れてきたユダヤ人、ソ連の圧政に苦しみポーランドなど東欧から自由を求めて渡ってきた人々、戦火を逃れてきたベトナム人など、確かに多くの人々がアメリカで新たな人生を得ている。

しかし、いくら広大で豊かなアメリカでも全ての人を受け入れることはできない。移民や難民がもたらす経済的・社会的負担や、その中にテロリストが含まれるのではないかという治安上の不安、そして偏見は、排他的な政策や暴力など社会的問題も生んでいる。そうした移民や難民は、たとえ入国がかなっても、定住のための認定を受けたり、安定した職を得るのは容易でない。言葉の壁もあれば、社会習慣の違いなどから地域社会に溶け込むのは楽ではない。

## 生活基盤づくりを支援する人々

アメリカには宗教団体や非営利団体から国際救済委員会などの民間組織まで、こうした人々を支援する団体は多い。そして、それに加え大きな支えとなるのが一般市民である。昨年夏のアフガニスタンからの米軍の完全撤退は、その手際の悪さがアメリカ国内でも大きな批判を浴びた。そして同国からの難民の数をさらに増やすことになった。

昨年夏以降だけでもアメリカに逃れてきたアフガン難民は約7万5000人。その数がサンフランシスコに次いで2番目に多いのがワシントンD.C.と隣接するバージニア州である。バージニア州北部のアフガン難民支援の中心の1つが「移民・難民支援センター」である。センターを運営するのはイラン移民三世のアリアナさん。幼いころ両親と移住してきたアリアナさんのお母さんも娘を手伝っている。同センターの目的は、地域社会の力を結集して移民や難民の受け入れ体制をつくり、アメリカでの生活基盤づくりを支援することである。

支援のかたちは幅広い。住居の確保、ベッドや毛布から衣類、冷蔵庫や調理道具の調達、食料の手配も必要だ。職のあっせんや子どもの学校の手配もある。多くの場合、家族単位で逃れ